

阿波の偉人
再発見！



その⑧
最終回

徳島県立

鳥居龍蔵記念博物館へようこそ

鳥居龍蔵は、1953(昭和28)年1月14日に82歳で、1959年にはきみ子が78歳で永眠しました。徳島県は、龍蔵夫妻を顕彰するため、1965年に「鳥居記念博物館」を鳴門市妙見山に建設しました。建築後40年以上を経過し、建物の老朽化や耐震性の問題が生じたことから、文化の森総合公園内に新たに設置することになり、文化の森総合公園開園20周年の昨年11月3日に「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館」が開館しました。

より多くの県民の皆さんに博物館に親しんでいただくため、説明パネルを手元に配置し、照明器具にはLEDランプを使用するなど、人にも環境にもやさしい展示を目指しました。

第一展示室の入口にあるモニターでは、龍蔵の調査の様子を当時の時代背景と合わせて映像で紹介しています。中に入ると、床一面に東アジアの地図が広がり、操作盤で地域を選ぶと龍蔵が調査で巡ったルートがLEDランプで示されます。奥には、中国「遼」の皇帝の墓である慶陵・東陵の復元模型を設置しています。また、「台湾・中国西部」「遼」「中国東北部・内モンゴル」「朝鮮半島」「千島列島・サハリン・シベリア」「日本列島」の展示コーナーでは、それぞれ、特徴

的な写真と収集した資料を展示しており、その中には護照(ごしょう・現在のビザにあたるもの)や馬頭琴、日本列島各地の出土品や徳島市城山貝塚の出土品など、今回新たに展示したものもあります。

第二展示室では、龍蔵や家族の遺品、書斎の復元などを展示しており、龍蔵が家族と一緒に調査に携わった生涯をたどります。また、師匠の坪井正五郎(つばいしょうごろう)



第一展示室風景

や阿波が生んだ「最後の国学者」と評される小杉楹邨(こすぎすきむら)などとのさまざまな交流も紹介しています。

第三展示室では、龍蔵が調査で初めて使ったころのカメラ、蝸管(ろうかん)蓄音機、土器パズルなどの体験学習や、龍蔵が調査した地域の民族衣装の試着ができるようになっています。また、パソコンで、龍蔵の生涯を映像で見たり、撮影した写真の一部を検索したりすることができ、子どもから大人まで楽しめるようになっています。

学問に情熱を燃やした鳥居龍蔵を駆けめぐった鳥居龍蔵。龍蔵に続く方が徳島から生まれることを期待しています。

(徳島県立鳥居龍蔵記念博物館 岡山真知子)